

ケアプランセンターあすか通信

令和8年4月15日発行

第112号

発行責任者 富田啓暢

かかえない介護と福祉用具の活用

介護というと「抱きかかえて支えるもの」というイメージを持たれているかもしれませんが、無理に抱きかかえる介護は、ご本人にも家族にも大きな負担となり転倒や腰痛の原因となることがあります。そこで「福祉用具を活用する」とことを考えてください。

福祉用具は特別なものではなく、日々の生活を支える道具です。

上手に活用することで①持ち上げない介護が出来る②安全に移動や動作が出来る③ご本人の「できる力」を引き出せるといったメリットがあります。

具体的には、ベッドの高さを調節することで起き上がりや立ち上がりができる。手すりや歩行器を使って自分の力で歩くことが出来る等々。

少しの工夫と福祉用具の活用で介護の負担はぐっと軽くなります。

福祉用具を使用することは「手を抜くこと」ではありません。むしろ、お互いの体を守りながらその人らしい生活を支える大切な方法です。

ご家族だけで頑張らずに福祉用具を上手に取り入れながら

安心できる介護を一緒に考えていきましょう。



退職ご挨拶

杉谷 俊明

皆さま長い期間お世話になり、お付き合いをいただきありがとうございます。ありがとうございました。

今後は健康の許す限り、好きな郷土史を先輩方から学び、米作りに精出したいと願っています。

新入社員のご挨拶

樋口 恵子

始めまして。四月からお世話になることになりました樋口と申します。身長一六五センチの大きい女の人です。お芝居や映画を見るのが大好きです。お芝居は演じるのも好きで役者も少しだけ経験があります。身体を動かすことが大好きで若いころはバレーボールをやりましたし、なんと四二・一九五キロを走るマラソンにチャレンジしたこともあります。三月までは看護師として仕事をして参りましたが一七年ぶりにケアマネジャーとして再出発することになりました。久しぶりの事で一年生と同じです。一から勉強して頑張ってください。どんな方を担当させていただきますか、今から楽しみです。どうぞよろしくお願ひします。

管理者交代のご挨拶

四月一日より管理者交代します。
前任 大川 浩子
新任 水杉 容子

今後とも宜しくお願ひ致します。

お疲れさま
でした

利用者の作品

水墨画



新宮市
大坂和子さん

俳句

熊野市
久保妙石さん
百歳
人生の行く道遠し
大柘野



手芸作品 (床マット)



新宮市
中本良子さん

作品



新宮市
大野千代さん

作品



新宮市
安宅博子さん

絵手紙



紀宝町
元屋敷眞弓さん

春の訪れ

四季のたより

春、柔らかな日差しが木々の眠りを醒まし、芽吹きの時を告げる。

大又川の瀬音が一段と高くなり、畦道につくしが顔を出し、歩みを止める。

蒼い空に、澄んだ空気、桜のほのかな甘い香りが漂い、小鳥を招き寄せる。

鶯は、枝から枝へと移り、花の影に隠れて、花から花へと姿を映し、時おりホーケキヨと習い始めの美声を聞かせてくれる。

我らはなんと幸せな事か、日頃の行いが良いのか、いやいや只の巡りあわせか……
本乗寺の参道の枝垂桜が晴れやかな姿を見せている。



(撮影は、ケアプランセンターあすか 法人本部本乗寺の春の風景です)